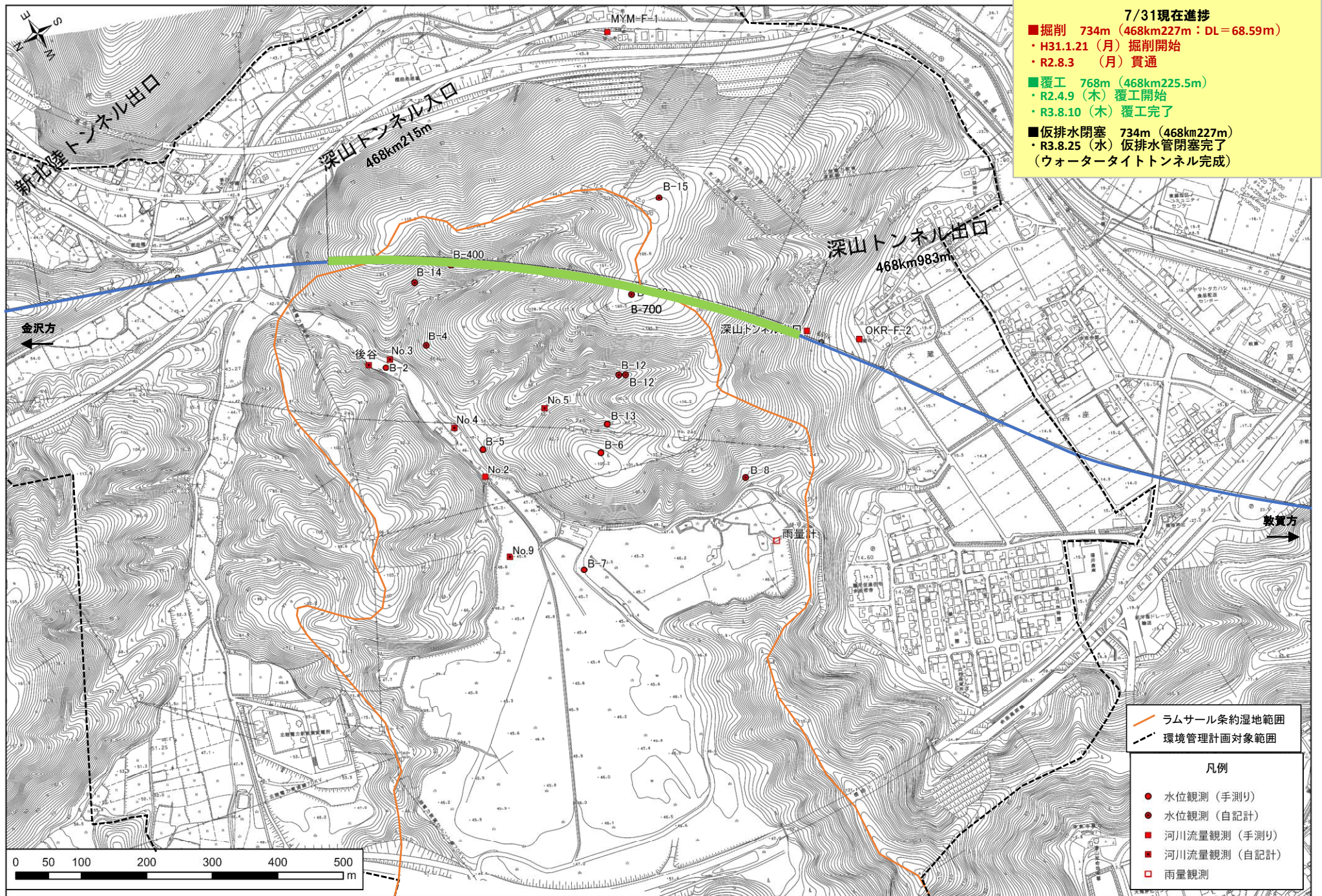


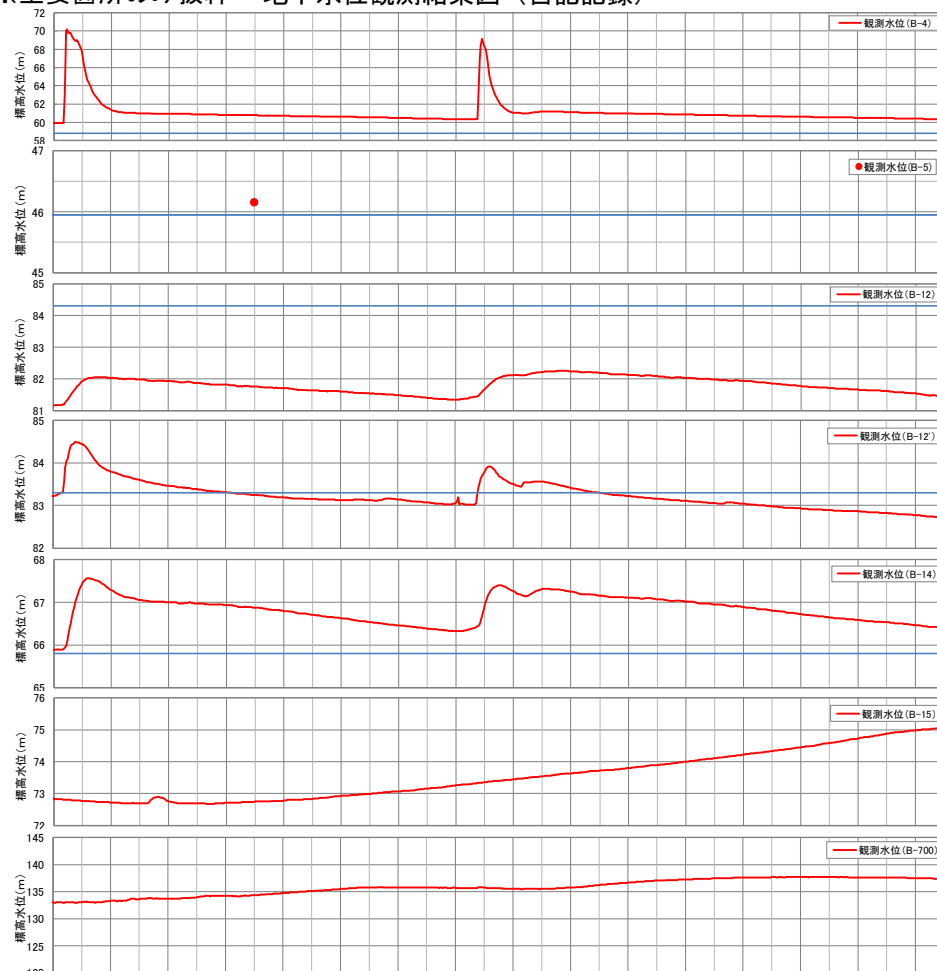
深山トンネル水文調査モニタリング報告書

調査期間：令和6年7月1日（月）～令和6年7月31日（水）

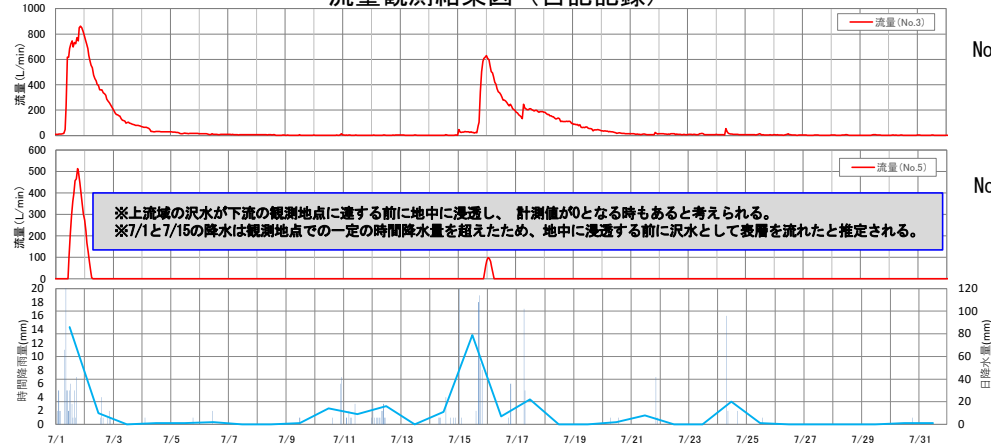
「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。



※主要箇所のみ抜粋 地下水位観測結果図（自記記録）



流量観測結果図（自記記録）



B-4 地下水位
過年度最低水位
58.8m

B-5 地下水位
過年度最低水位
46.0m

B-12 地下水位
過年度最低水位
84.3m

B-12' 地下水位
過年度最低水位
83.3m

B-14 地下水位
過年度最低水位
65.8m

B-15 地下水位

B-700 地下水位

No. 3 流量

No. 5 流量

全体総括

■目立った変動なし □やや変動あり
□変動あり

期間中の地下水位低下量

■1m未満ないし増加：全箇所

□2m未満：

□5m未満：

□ 5m以上：

日降水量

□15mm未満

■15mm以上（6日）

■50mm以上（3日）

月降水量

□80mm未満

□80mm以上

□130mm以上

■200mm以上

概 要

■水位変動について

①目立った変動なし。

②B-4（自記水位計）：7/1と7/15の降水に明瞭に反応し、その後なだらかに水位低下する。

③ B-5（手計り）：水位変動はほぼ一定のため、本年から手計りに移行した。過年度最低水位を上回っている。

④B-12（自記水位計）：不明瞭ながら降水に反応する。7/1と7/15の降水で水位が上昇している。過年度最低水位を下回っている状態が続くため、今後も注視していく。

⑤B-12'（自記水位計）：7/1と7/15の降水に明瞭に反応し、その後水位低下している。過年度最低水位付近で変動しているため、今後も注視していく。

⑥B-14（自記水位計）：不明瞭ながら降水に反応する。7/1と7/15の降水で水位が上昇し、その後なだらかに低下している。

過年度最低水位付近で変動しており、注視が必要である。

⑦B-15（自記水位計）：期間中、7/7まで水位が低下したのち、上昇している。

⑧B-700（自記水位計）：期間中、降水に明瞭な反応を示さない。7/27まで水位が上昇し、その後低下している。

■流量変動について

① No. 3（自記）：期間中の降水に明瞭な反応を示す。7/1と7/15の降水で流量が増加するが、その後降水が少ない時期は減少している。

②No. 5（自記）：7/1と7/15の降水でのみ流量が観測された。

⇒少雨や大雨の数日後の状況として、当該上流域の沢水が下流の観測地点に達する前に地中に浸透することにより流量の計測値がゼロとなっている状況がある。

⇒7/1と7/15の降水では地中に浸透する前に沢水として表層を流れたと推定される。

■降水量について

① 6月の日最大降水量：6/23の80.0mmである。

⇒ 7月の日最大降水量：7/1の86.0mmである。

② 6月の降水量：210.0mm、7月の降水量：291.0mmである。

昨年6月は332.5mm、7月は243.5mmである。

平年値（敦賀アメダス）は6月は144.1mm、7月は204.0mmである。